12・14(日)

冷害問題を考える講演集会

スライド上映

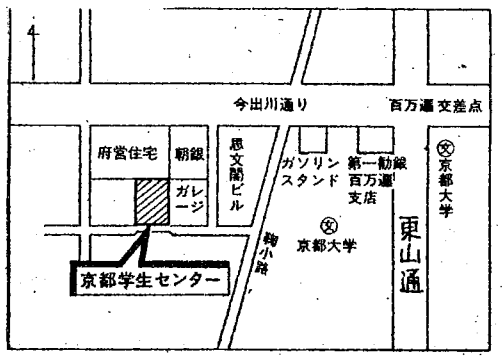
講師：山中高吉氏・岡部清氏
（社会党府議会議員）（農民詩人）

日時：12月14日PM1:30～

場所：京都学生センター

主催：集会実行委

会場地図



冷害、戦後最悪

皆無作／穂がついたまま焼くしかない

青森県六戸町のAさん「トラクターのローンの返済をどうせばいいだべな。取り入れ見こんで百万円ほど借金したが、肥料代や農薬代に使ってしまった。共済保険は本当はいつもの半分しか出ねえし、政府の救済金といったって、みんな利子つきの借金だ。これ以上減反されるとどうしていいかわからねえ」

学生のみなさん！

今年、日本列島を襲った異常気象は、明治三十五年以来という雨の多い涼しい夏の爪跡を残して過ぎ去りました。低温と寡照、そして稲熱（イモチ）病の発生で全国にまたがって水稲が大きな被害を受け、極度の減収と品質低悪が生じました。特に東北の冷害はひどく、青森県はその半分が皆無作という惨状です。冷害は水稲にとどまらず農作物全般に及び、被害は六千九百億円を越える巨額にのぼっています。

冷害農家は飯米や種もみにも事欠き、多額の借金をかかえて、農業に希望を失ないつつあります。すでに七名の農民が自殺に追いこまれ、子弟の高校進学をあきらめさせる農家もあります。一年間手をかけて育てた稲を水田に放置したまま出稼ぎにでる農家も続出し、農民の生活は破壊されています。

牛だらわら食ばいいけどおらどは何食ばいいかな

青森県三沢市のBさん「国が米をつくれいうから、銭こばかけて畑ば田んぼにしたばって、こんどは米があまるから減反しろ、うまい米にしろっていうんだ。そしたらこの冷害だ。おらは国のしゃべるとおりにやってきた。そしたら借金いっぱしふえてしまった。もう政府のいうことききたくねえ」

青森県六ヵ所村のCさん「東京の息子に毎年新米を送ってやっていたがねえ。年とって体弱ってきたんで出稼ぎさ行けねえ。今年は息子から仕送りしてもらわねばやっていけねえ。百姓やって40年になるが、こしたことは初めてだ」

みなさん！

国民の食糧確保という重責をになっている農民の惨状を見過ごすことはできません。今全国各地で冷害農家救援運動が推進されております。この京都に於ても大きな救援運動を推し進めたいと思います。本講演集会は、スライドと二つの講演で冷害の実情を知ってもらうべく設定しました。多くの心ある方々が冷害農家に暖かい救援の手をさしのべることを願い、本講演集会に参加されることを訴えます。